

畜研だより

平成29年11月号

発行 富山県農林水産総合技術センター
畜産研究所
〒939-2622 富山市婦中町千里前山1
TEL 076-469-5921 FAX 076-469-5945
<http://www.pref.toyama.jp/branches/1661/chikusan/>

技術情報

ニホンジカによる飼料作物への被害調査と対策の検討 ～これから増加するニホンジカによる食害に備える～

1. 研究所内にニホンジカが生息、飼料作物に食害発生！！

数年前から研究所内の牧草地でニホンジカやその痕跡（足跡、糞）が度々見かけられるようになりました。

また、所内の林地に設置された罠（富山県自然博物館ねいの里が設置）では H27 年 4～12 月に 12 頭のニホンジカが捕獲されており(表 1)、当所周辺には多くのニホンジカが生息していると考えられます。

表 1 所内林地で捕獲されたニホンジカ頭数 (H27 年 4～12 月) (頭)

成獣・亜成獣			幼獣				合計
♂	♀	計	♂	♀	不明	計	
8	3	11		1		1	12

牧草地ではシカによると思われる飼料作物の食害も確認されており(写真 1)、痕跡のあった場所に人感センサー付きカメラを設置(H29.10/5～10)したところ、実際にニホンジカ (H29.10/6:♂2 頭、10/10:♀2 頭) が確認されました(写真 2)。



写真 1 食害にあった飼料用トウモロコシ (H29 年 5 月下旬)



写真 2 牧草地に現れた♀個体 (H29 年 10 月 10 日 AM5:55)

2. 近県では農作物の被害が顕在化

近県においては、ニホンジカの捕獲頭数は急速に増加しており(表 2)、シカによる農作物への被害がすでに発生しています(表 3)。

本県においても捕獲数は増加し(表 2)、目撃・痕跡情報も県内全域に広がっているため(図 1)、早晚、県内の農作物についても顕在化すると予想されます。

表 2 近県・本県のニホンジカ捕獲頭数 (頭)

	H22	23	24	25	26
新潟県	39	70	57	95	188
石川県	11	5	14	9	47
福井県	8,475	5,865	6,561	7,058	10,492
長野県	20,520	26,422	33,668	39,663	39,506
岐阜県	5,198	6,554	8,715	9,497	17,441
富山県	35	56	48	33	84

表 3 近県・本県のニホンジカによる農作物被害額 (万円)

	H22	23	24	25	26
新潟県	0	0	8	0	29
石川県	0	0	0	0	0
福井県	667	1,035	682	1,268	188
長野県	24,623	22,000	19,003	17,788	18,339
岐阜県	2,909	4,210	7,974	10,514	5,777
富山県	0	0	0	0	0

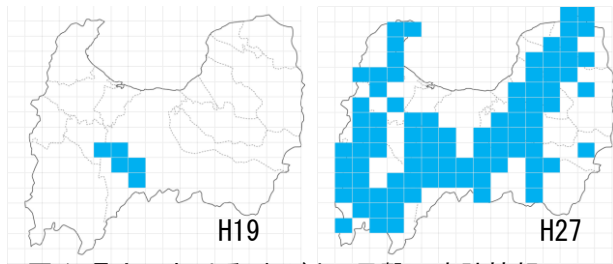


図1 県内におけるニホンジカの見撃・痕跡情報

3. 県内の牧草地ではすでに被害が進行しているかもしれません

農水省の統計では、ニホンジカによる飼料作物被害額は38億3,379万円(H24年度)にのぼり、「牛放牧場の全国実態調査(2008年)」(農研機構)によれば、全国の公共牧場を対象にしたアンケートにおいて回答が得られた341地点のうち、その半数以上の180地点でニホンジカが出没しており、65地点で牧草の食害が報告されています。

牧草地は一般に山林地に隣接しているため野生動物が侵入しやすく、農産物に先立ち被害が発生すると考えられますが、飼料作物の食害は見た目では分かりにくく、その数量化も簡単ではありません。

しかしながら、先に述べた状況を見ると、県内の牧草地でもすでに飼料作物の被害が進行している可能性があります。

4. 被害調査と対策方法の検討を始めています

そこで、県内牧草地におけるニホンジカによる被害の広がりにも備え、①被害の時期(時間帯・季節)、②電気柵の効果などを、所内の牧草地で本年10月から調査しています。

調査は、本年10月中旬に除草剤散布後、新たにイタリアンライグラスを播種した牧草地で実施しています。

この牧草地(約140m×60m)に2m四方の柵(写真3)を9箇所設置し、来年10月までの1年間(5月、7月、9月に刈取・収穫)定期的に柵内外の草丈を測定し被害率と季節の関係について調査します。

また、牧草地内には5台の人感センサー付きカメラ(写真4)を設置し、被害の時間帯も調査します。

あわせて、牧草地の一部に電気柵を設置し、電気柵による被害の軽減効果を検証します。



写真3 被害率調査のためのワイヤメッシュ(4×4m、高さ1m)



写真4 人感センサー付のカメラ、昼夜を問わず撮影できる

5. 調査結果を検討し、情報提供を行います

栃木県の牧場で行われた調査では、ニホンジカ出没は積雪1ヵ月前の11月頃に急増し、積雪期に減少するが、4月に少し増加し、夏は少ないこと、また、日出・日没の時間帯に多いことが報告されています。(塚田、日草誌58(3):187-192(2012))

現在、富山県ではこうしたデータはなく、今回、当所牧草地におけるニホンジカの動態について解明することで、県内において対策が必要になった場合、どの季節にどのような対策を実施するのが効果的かについて広く情報提供をできるものと考えています。

(酪農肉牛課 五箇副主幹研究員)